

秋田市デジタル化推進計画【第2.0版】(骨子案)の概要

計画改定趣旨

人口減少や高齢化に伴う生産年齢人口の減少など課題を抱える中、社会経済の変化に対応し、持続可能な社会の実現に取り組みながら力強く歩んでいくためには、デジタル化の推進が急務である。デジタル化の急激な変化を本市の社会課題を解決する機会と捉え、市全体のビジョンを持って推進・改革をしていくことが必要。これらを踏まえ、「ともにづくり ともに生きる 人・まち・くらし」の理念の実現を目指し、本市の情報化施策の方向性を示す「秋田市デジタル化推進計画」を抜本的に見直し、「秋田市デジタル化推進計画【第2.0版】」として改定する。(計画期間：令和6年度～令和8年度の3年間)

目指す将来像

- 行政の各分野でデジタル技術を活用し、**行政手続の簡素化や行政運営の効率化**を図ることで、市民の利便性の向上に努めるとともに、市役所に行かなくても全ての手続ができる「**デジタル市役所**」の実現を目指す。
- 市民一人ひとりがデジタル技術を使いこなしながら、生活の質を高めることで、「**心豊かな暮らし**」を実現するとともに、**誰一人取り残されない社会**を目指す。

重要な視点

- ①利用者ファースト、デジタルファースト、スマホファースト
- ②情報の共有と価値の創出
- ③BPRを伴う改善と見直しの継続
- ④デジタル人材の育成

取組事項

1 デジタル化の基礎条件整備

(1) デジタル基盤の整備

ア 地域情報化に係る基盤

行政手続のオンライン化、キャッシュレス化、オープンデータの推進、マイナンバーカードの普及・活用、市民との双方向の情報発信・受信、市民が利用できる情報基盤や、安全・安心を実現する情報基盤の整備(災害対応・雪対策等を含む)

イ 行政情報化に係る基盤

自治体情報システムの標準化・共通化・最適化、AI・RPAの利用促進、行政事務・業務の効率化

(2) デジタル人材の育成

業務のBPRを視野に入れたデジタル人材の育成、人材育成を推進する研修体制の確立 等

(3) 誰一人取り残されないための仕組み

ア デジタルデバйд対策

多様な主体との協働による各種スマートフォン教室の実施、デジタルスキルについて地域で教え合い、学び合うことができる環境整備 等

イ デジタルスキルの向上

学校におけるICT環境の整備 等

デジタル化の基礎条件整備を土台に各事業へ展開

2 デジタルを活用した創生戦略

(1) 先端技術を活用した地域産業の振興としごとづくり

ICT分野での先端企業の誘致、デジタル人材育成、スマート農業 等

(2) 芸術文化・スポーツ・観光による都市の魅力向上

VR・AR技術による新たな魅力の発掘、情報発信ツールを活用した観光プロモーション 等

(3) 未来につなぐ環境立市あきたの推進

地域の環境特性を踏まえたライフスタイルの創造、環境関連技術を活力とした地域活性化に寄与する情報発信や参加促進 等

(4) 子どもを生み育てやすい社会づくり

子育て家庭等への必要な情報のプッシュ型通知、保育DXの推進 等

(5) いきいきと暮らせる健康長寿社会づくり

デジタル技術を活用したエイジフレンドリーシティの実現、持続可能な公共交通網の構築 等

(6) 分野を超えた取組等

国・県・市や民間企業、NPO団体等のステークホルダーとの連携による地域課題の解決に向けた取組の推進 等

3 情報セキュリティ対策の徹底

法令等に基づく適切な情報システムの運用体制の確保、研修やガイドライン等の充実による職員全体のセキュリティ意識の向上 等